広島県立保健福祉短大紀要　4(1)　93－101　1999

前言語期における認知・コミュニケーション行動の発達評価チェック・リスト（試案）の作成

進藤美津子*1　玉井　ふみ*1　山崎　和子*1　堀江真由美*1　城本　貞子*1
兵頭　慶子*2　竹中　和子*2　森下　孝夫*3

*1 広島県立保健福祉短期大学言語聴覚療法学科
*2 広島県立保健福祉短期大学看護学科
*3 広島県立保健福祉短期大学作業療法学科

抄　録

前言語期の子どもの認知・コミュニケーション行動の発達評価の尺度を作成するために従来の乳児発達検査や乳児研究に関する文献資料を検討し，認知・理解面，コミュニケーション行動面，運動機能面から成る，発達チェック・リスト（試案）を作成した。これは従来の発達検査では不足していた項目を新たに加えて，再構成したものである。今後は，さらに検討を加え，言語レディネスの発達評価尺度を作成し，発達障害児の言語の出現に至る発達レベルを評価し，前言語期の段階の子どもを指導・訓練する際に活用していく計画である。

キーワード：前言語期，認知・コミュニケーション行動の発達，発達評価，チェック・リスト

はじめに

最近の乳児の発達研究[1-6]によると，子どもはことばを獲得する以前から，注視，発声，しぐさなどの非言語的な手段を用いて，意図の伝達や相互的な伝達を行っており，このような前言語的なコミュニケーション行動が，その後の言語形式の獲得や対話の基礎となることが明らかにされている。乳児は生後２か月頃になると伝達行動が芽生えてくるが，伝達行動の発達過程や発達の全体像はまだ解明されていない。一方，乳児のコミュニケーションの発達は，母子の相互作用の発達[7-11]と密接な関係があるといわれている。乳児にとって母親の存在は，成長発達を促進するうえで，刺激を与える環境要因のひとつとして重要視されている。さらに乳児は母親との情緒的コミュニケーション[12]を通して人に対する基本的信頼関係を獲得していく。近年，乳児期の母子相互作用や情緒発達への関心の高まりがみられるが，生後の初期からの母子の相互作用や情緒発達に関する縦断研究はまだなされていない。

従来の乳児の発達検査[13]は，乳児の精神発達や行動発達の評価診断を目的として作成されたものであり，前言語期における母子コミュニケーションや母子相互作用の発達，言語習得の基礎となる認知や言語理解の発達など，言語の出現に至るコミュニケーション行動の発達に関する項目が不足している。今回，私どもは，既成の発達検査で不足している上述の項目を取り入れた発達評価項目を検討し，チェックリストの作成を試みたので報告する。

目　的

一般に，乳児はことばが出現する迄に，どのような認知およびコミュニケーション行動の発達がなされているのであろうか。私どもは，言語発達遅滞児の指導に際して，前言語期の子どもの認知およびコミュニケーション行動の発達レベルを，適切に評価する尺度の必要性を強く感じてきた。しかし，既成の発達検査ではこれらの項目が不足しており，充分なチェックができなかった。そこで，私どもは各々の臨床経験を踏まえ，従来の発達検査や，文献資料などより乳児の認知・コミュニケーションの発達項目を抽出し，新たに前言語期の“認知・コミュニケーション行動の発達チェックリスト”（試案）を作成することにした。

方　法

1．研究方法

1）乳児の各月齢ごとの発達指標および行動観察項目を検討した。

① 母子コミュニケーションにおける前言語的な伝達行動および言語理解の発達過程

ア．乳児の注視，発声，しぐさなどの非言語手段による伝達行動の観察

イ．指さしが出現する以前の乳児の視覚情報や音声言語への反応の詳細な観察

ウ．乳児がどのように周囲の状況や母親の発する情報を意味づけていくか．

② 愛着行動の成立

ア．母子相互作用の成立する時期とその現象．

イ．乳児の“泣き”・“微笑”を視点に置いた情緒的コミュニケーションの発達

2）認知能力の発達について次の視点で，評価項目を検討した。

① 言語理解の発達過程における“物とのかかわり”の発達過程

ア．手段・目的関係の発達

② 音楽の発達過程

ア．異なる旋律に対する情緒的反応の発達的変化

イ．音の高低（ピッチ）の模倣の発達

3）既成の乳児発達検査項目の検討

下記のような既成の乳児発達検査[14~24]および参考文献や資料[25~31]の中で上述の１）および２）の各視点を踏まえた項目を抽出する作業を，共同研究者各々が行った。

① 津守・稲毛式乳幼児精神発達質問紙（対象年齢：０～３歳）[14]

② 日本版デンバー式発達スクリーニング検査（誕生～６歳）[15]

③ MCCベビーテスト（生後２～30か月）[16]

④ 新版Ｋ式発達検査（新生児～14歳すぎ）[17]

⑤ ゲゼル行動発達検査法（生後4週～36か月）[18]

⑥ ブラゼルトン新生児行動評価法（生後１か月までの新生児）[19]

⑦ ウズギリス・ハント発達尺度（０～２歳頃）[20]

⑧ ＭＮ式発達スクリーニングテスト（６か月～６歳）[21]

⑨ 国立特殊教育総合研究所コミュニケーションチェックリスト（１～27か月）[22]

⑩ 田中・進藤による乳児の聴覚発達チェック・リスト（０～15か月）[23]

⑪ ミュンヘン機能的発達診断法（新生児～12か月）[24]

⑫　長崎・小野里による初期コミュニケーションアセスメント尺度（試案；０～２歳）[25]

⑬　相澤による社会的相互作用整理表（０～２歳）[26]

⑭　川上による相互交渉の発達（０～２歳）[27]

⑮　福岡地区小児科医会乳幼児健診マニュアル（１～12か月）[28]

⑯　乳幼児の精神発達スクリーニング（１か月～５歳）[29]

⑰　フレーミッグによる乳児の発達（１～12か月）[30]

⑱　中原・川口による乳児用発達尺度（１～13か月）[31]

４）新たな発達項目の検討

さらに，各月齢ごとに，次のようなチェック項目に相当する乳児の行動について，共同研究者の臨床・学術経験を基に，発達の指標となりうる項目を収集した。

ア．母親の育児姿勢
イ．子どもへの愛着感
ウ．授乳の状況
エ．泣きの状況と停止
オ．微笑の状況と停止
カ．母子間の注視・視線の回避
キ．母子間のスキンシップ
ク．母子の声によるコミュニケーション
ケ．要求表現
コ．自己表現
サ．音や音楽に対する反応
シ．ものを介した遊び方
ス．もの・人・自分との関係
セ．探索行動
ソ．運動発達　　など

５）発達チェック・リスト（試案）作成の手順

上述の１）～４）の検討を踏まえ，０か月～12か月の各月齢毎に，発達の指標となりうる事項（各月齢とも20数項目ずつ）を共同研究者全員が各々列挙し，項目全体を表にまとめ，その資料の中から，①認知・理解面，②コミュニケーション行動面，③運動機能面の各側面の発達をチエックするに相応しい評価項目を全員で抽出・検討し，発達リスト（試案）を作成した。

「前言語期における認知・コミュニケーション行動の発達評価チェックリスト（試案）」の作成

以下に概略を述べる。

１．認知・理解面

言語発達の基盤をなす認知・理解面のうち，聴覚認知と言語理解の発達を取り上げた。

１）聴覚認知の発達

乳児の０か月から12か月に至る，表１に示す22項目からなる発達リストを作成した。

乳児の聴覚の発達については，既に筆者の一人が田中ら(1978)[23]と作成した「乳児の聴覚の発達チェック・リスト」があるが，さらに音楽認知の発達[32-35]の項目を新たに加えた。最近では，ことばのない重度障害児に対する音楽療法が試みられ，その成果をあげつつある。音楽認知の発達を指標に加えることにより，前言語期にある子どもの聴覚認知の発達を指導に結びつけてとらえることができると考えた。

表１　前言語期の認知・コミュニケーション行動の発達チェック・リスト

（数字は“月齢”・“通し番号”を示す）

１）認知・理解面①

聴覚認知	
0・1	大きな音にビクッとしたり、目を覚ます。
2	音を聞かせると身動きが止まる。
1・3	泣いている時、お母さんの声がすると泣きやむ。
2・4	鈴を鳴らすと鈴を注視する。
3・5	歌声や音楽が聞こえてくると、にこにこする、または泣き止む。
6	音楽や音のする方向に顔を向ける。
4・7	お母さんの声がすると、お母さんの方に振り向く。
5・8	心地よい音楽を流すと、聴き入って、活動が少なくなる。
9	大きな音に恐れを示す。
10	話しているか、歌っている人々の方を見る。
6・11	紙のがさつきの音に頭や目を向ける。
12	音楽が聞こえると、喜んだり、じっと聞き入る。
13	ガラガラなどを自分でもって、繰り返し音を出している。
14	名前を呼ぶと振り向く。
7・15	音楽に聴き入ったり、音楽の変わり目に反応する。
16	リズミカルな音楽が聞こえてくると体を動かして反応する。
8・17	お父さんが帰ってきた時の車の音や玄関を開ける音や靴音を聞いただけで理解して行動する。
18	大人たちの談話にじっと聴き入る。
19	音楽のリズムに合わせて体を動かす。
9・20	音楽を聞かせたり歌を歌ってあげると、手足を動かして喜ぶ。
10・21	好きな音楽が聞こえてくると、じっと音楽に聴き入ったり、声を出して反応する。
12・22	お母さんの声の調子、上がり下がりなどをまねる。

表２　前言語期の認知・コミュニケーション行動の発達チェック・リスト
１）認知・理解面②

言語理解のはじまり	
9・1	手に何か持っている時に、ちょうだいと身振りもそえて要求すると、イヤイヤと首振りをする、もしくは手渡す。
2	パパは？とかママは？とか言うと、その人の方をちらっと見る。
3	手を振ってバイバイと言うと、身振りや声で応じる。
4	強い調子でダメというと動作を止める。
10・5	ちょうだいと手を出すと渡してくれる。
6	強い調子でいけませんと言うと、手を引っ込めて親の顔を見る。
12・7	「立って」「おいで」「ねんね」などのことばによる要求を理解する。

表３　前言語期の認知・コミュニケーション行動の発達チェック・リスト
２）コミュニケーション行動面①

コミュニケーション行動　対人関係	
0・1	お母さんの顔をよく見つめる。
2	お母さんによく微笑む。
3	お母さんが顔を近づけると目が合う。
1・4	泣いていても、話しかけると泣き止んだり、手足をバタバタさせていたのに静かになる。
5	抱っこすると泣き止むのに、降ろすとまた泣く。
2・6	何をしても泣き止まないことがある。
7	お母さんの話しかけに、まなざしを固定して、微笑み返したり、活発な動きによって反応する。
3・8	お母さんの顔を覗き込んだり、目を合わせてにこにこ笑う。
9	赤ちゃんが一人で遊んでいる時に、お母さんが相手をすると喜ぶ。
10	話しかけると、声を出して喜ぶ。
11	気に入らない事があると、ぐずって怒る。
5・12	抱っこすると、喜んでにこにこする。
13	高い高いやくるくる回しをすると喜ぶ。
14	イナイイナイバーをすると、喜んでにこにこ笑う。
15	お母さんがおもちゃなどで遊びに誘うと応じて一緒に遊ぶ。
16	お母さんが声をかけると、赤ちゃんも同じように声を出して応える。
6・17	お母さんが手を差しのべると、喜んで自分から体を乗り出す。
18	お母さんが怒った表情や声の調子で話しかけた時と、にこにこ顔で優しい声の調子で話しかけた時とでは、赤ちゃんの様子が違う。
19	お母さんと他の人を区別している。
7・20	欲しいものが得られないと、ぐずって怒る。
21	見知らぬ人には、すぐに泣いてしまう。
22	赤ちゃんの方から、お母さんの膝にもたれたり、顔に触ったり、顔を近づけたりする。
9・23	お母さんに遊んでもらおうとして、おもちゃを持ってきたり、差し出してみせたりする。
10・24	親のする事をしたがる。（字を書く、くしを使う等）
11・25	見知らぬ人が来ると、じっとみつめたり、母親を探したり、泣いたりする。
12・26	お母さんにおもちゃを渡す。
27	お母さんの姿が見えないと、泣いたり探したりする。
28	お母さんのそばで遊ぶ。
29	ほめられると何度も同じことをする。

２）言語理解のはじまり

乳児の９か月から12か月に至る，表２に示す７項目よりなる発達リストを作成した。

乳児では，聴覚の発達が質的に進むにつれ，生後９か月頃より子ども自身が軸となって日常繰り返される事象や状況と音声言語が結びついていき，チョウダイ，バイバイ，ダメなどの話しことばの意味が段々分かってくる。今回作成した言語理解の発達のリストは，聴覚認知の発達リストの中に含めることもできるが，音楽や声の調子の認知と区別して評価するために，聴覚認知から独立した項目として作成したものである。

２．コミュニケーション行動面

乳児のコミュニケーション行動の発達を，対人関係，対物関係，表出面に分けて検討した。

１）コミュニケーション行動－対人関係

乳児の０か月から12か月に至る，表３に示す29項目の発達チェック・リストを作成した乳児のコミュニケーションの発達の基盤である，母子相互作用の発達やアタッチメント[36-37]の成立に着目し，検討を行った。乳児の“泣き”，“微笑”，“注視”，“スキン・シップ”などに視点を置いた情緒的コミュニケーションの発達[38-44]を考慮し，各月齢ごとに発達項目を作成した。乳児は初期には受動的なかかわりが主体であるが，生後６か月頃より徐々に能動的なかかわりが見られるようになっていくことがわかる。

２）コミュニケーション行動－対物関係

乳児の０か月から12か月

に至る，表4に示す25項目の発達チェック・リストを作成した。乳児の言語理解の発達の背景となる，“物とのかかわり”の発達に着目し，“手段・目的関係の発達”[45]に視点を置き検討を行った。視覚認知および上肢の機能の発達をみると3か月頃までは受け身であった反応が，4～5か月頃から能動的な動きが見られるようになっている。

3）コミュニケーション行動－表出

乳児の0か月から12か月に至る，表5に示す16項目の発達チェック・リストを作成した。乳児のコミュニケーションの表出面に着目し，発声および身振りに視点を置いて検討した。新生児ではもっぱら泣くことで表出しているが，生後1か月頃より，声によるコミュニケーションが行われるようになり，10か月頃より発語が出現し始める。

表4　前言語期の認知・コミュニケーション行動の発達チェック・リスト
2）コミュニケーション行動面②

コミュニケーション行動	対物関係
3・1	おもちゃを差し出すと、それを見る。
4・2	手に持っているおもちゃを取り去られると抵抗する。
3	体のそばにあるおもちゃに手を伸ばすがうまくつかめない。
5・4	手を確実におもちゃの方向に伸ばす。
5	おもちゃを差し出すと、ただちに手を出してつかむ。
6	いろいろの物を両手で口にもっていく。
7	おもちゃの車を目で追う。
6・8	ガラガラをもって遊ぶ。
9	そばで新聞を読んでいると引っ張って破る。
7・10	おもちゃよりも、食器や日常品で遊ぶことを好む。
11	積み木で机の上を叩いたり、それを口に入れたり、手で回して確かめる。
12	下に落ちたおもちゃを見つめる。
13	ベルを持たせると振り鳴らして遊ぶ。
8・14	物を何度も繰り返し落とす。
15	大人がものを書いているのをじっと見る。
16	鏡に映った自分の顔を見つめる。
17	床に落ちている小さな物を注意して拾う。
9・18	引き出しを開けて積み木を入れ物から取り出し、また入れる。
10・19	テーブルを回って欲しい物を取りに行く。
20	親がしてみせると、入れ物のふたを取って中の積み木を取ろうとする。
11・21	おもちゃの車など手で走らせて遊ぶ。
22	人と、ボールをやりとりして遊べる。
23	ちょうだいと言って手を出せば、物を相手に渡す。
12・24	積み木を重ねる。
25	鉛筆でなぐり描きをする。

3．運動機能面

乳児の運動面の発達において，コミュニケーション行動の発達に最も関係が深い，“手足の運動”と“口の動き”の発達に視点を置き，検討をおこなった。

1）手足の運動の発達

乳児の0か月から12か月にわたる，表6に示す24項目の発達チェック・リストを作成した。

手の運動の発達は，生後1か月より，持たせたガラガラなどを短時間，持てるようになってゆき，6か月頃より指で小さなものをつかむようになる。一方，足の運動発達では，1か月時には，足をピンピンさせるような動きから始まり，7か月ではつかまり立ち，10か月では伝い歩きができるようになる。このような手足の運動発達により，物の操作や身体の移動が徐々に可能になり，理解力が身についていく。

2）口の動きの発達

乳児の0か月から12か月にわたる，表7に示す16項目の発達チェック・リストを作成した。

発声・発語の運動機能に関係が深い，乳児の摂食・嚥下に関係する口の動きの発達に着目し，検討を行った。飲む，吸う，口唇の動きなどの発達は月齢が進むにつれて，徐々に随意的な運動が形成されていく。

4．検査の手続き

上述のチェック・リストの各項目に，次のような基準で，母親に子どもの発達状況を記入してもらう。

① いつもそれが可能である項目：○印
② それができたりできなかったりする項目：△印
③ それがまだよくできない項目：×印

5．結果の評価

各側面ごとに，○がつく項目をチェックし，それぞれの側面の発達レベル（発達月齢）を評価する。発達の質的な面では，それぞれの項目の内容がクリアされているか否かをチェックし，前言語期の子どものコミュニケーション行動の発達をより詳しくとらえることができるようにする。

まとめ

前言語期の子どもの認知・コミュニケーション行動の発達レベルを評価するために，従来の発達検査や乳児研究に関する文献資料を検討し，新たに発達チェック・リスト（試案）を作成した。このリストは，従来の発達検査では不足していた項目を加えて，ことばの出現が遅れた子どもたちの言語レディネス評価の尺度として，指導の際の指標として役立つことを目指している。今後は，さらに健常乳児において評価項目や発達段階を検討し，発達障害児に適用を試み，前言語期の段階にいる子どもの指導・訓練に役立てていきたいと考える。

本研究は，平成７年度広島県立保健福祉短期大学特別研究事業の助成を受けて行なわれたものである。

表５　前言語期の認知・コミュニケーション行動の発達チェック・リスト
２）コミュニケーション行動面③

コミュニケーション行動　表出	
0・1	いろいろな泣き方をする。
2	泣いていても、ミルクを飲んだり、おむつをかえたり、抱っこしたら、たいていは泣き止む。
1・3	話をするように、声を出す。
2・4	お母さんが話しかけると「アー」とか「ウー」とか声を出して反応する。
5	機嫌のよい時は、辺りを見回して、声を出したり、手足を動かして、一人で遊ぶ。
3・6	授乳を途中で止めると、もっと飲みたくて怒って泣く。
7	声を立てて笑う。
5・8	鏡に映った自分の姿を見て声を出す。
7・9	催促するようなしぐさをしたり声を出す。
8・10	声を出してお母さんの注意を引こうとする。
11	「マンマ」「ブーブー」の声を出すようになる。
10・12	イヤイヤをする。
13	「マンマ」といって食事の催促をする。
11・14	バイバイに応えて手をふる。
15	タ行、ダ行、ナ行の声を出すようになる。
12・16	よく知っている場所に来ると「アーアー」といって教える。

文　献

1) 長崎勤．健常乳幼児とダウン症乳幼児の要求場面における前言語的伝達行為の縦断的検討．音声言語医学，35:331-337，1994
2) 麻生武．身ぶりからことばへ　赤ちゃんにみる私たちの起源．東京，新曜社，78-393，1992
3) Bates, E. Camaioni, L. et al. The acquisition of performatives prior to speech. Merrill Palmer Quarterly, 21:205-226, 1975
4) 池弘子訳．子どもの言語とコミュニケーション．東京，東信堂，30-54，1994
5) 山田洋子．前言語的なコミュニケーション．高橋道子編，新・児童心理学講座２，東京，金子書房，181-209，1992
6) 正高信男．ことばの誕生．東京，紀伊國屋書店，125-149，1991
7) 斉藤こずゑ，武井澄江ほか．生後２年間の伝達行動の発達－母子相互作用における発声行動の分析－．教育心理学研究，29:20-29，1981
8) 古澤頼雄．発達初期の母親関係．助産婦雑誌，35:654-660，1981
9) 辰野俊子，斉藤こずゑほか．言語行動の発達（Ⅱ）玩具を媒介とした母子相互作用（2から17カ月児の擬似縦断資料の分析）．東京大学教育学部紀要，19:35-72，1979

表６　前言語期の認知・コミュニケーション行動の発達チェック・リスト
３）運動機能面①

手足の運動	
1・1	持たせたガラガラを３秒くらいは持てる。
2	手を開いたり閉じたりする。
3	入浴の時やおむつを替える時、足をピンピンさせる。
2・4	じっと見つめて180度目で追いかける。
5	立てて抱いても首はふらふらしない。
6	抱いて歩くとキョロキョロあたりを見回す。
3・7	ガラガラを１分間位持てる。
8	仰向けに寝ていて、両手を顔の上で観察する。
9	腹ばいにすると手足をバタバタ動かす。
4・10	腹ばいの姿勢で両ひじをのばして頭をあげる。
5・11	腹ばいの時、手の平で上半身を支える。
6・12	仰向けから腹ばいに寝返る。
13	両手で腰を支えると座れる。
14	おもちゃを一方の手からもう一方の手に持ち替える。
15	干しぶどうのような小さな物を指先でつまむ。
7・16	一人で座ったまま、両手におもちゃを持って遊ぶ。
17	つかまって立ち上がる。
18	つかまって自分で座る。
19	手を開いて物をつかむ。
8・20	小さな物を人差し指と親指とでつまむ。
9・21	四つ這いをする。
10・22	伝い歩きをする。
11・23	片手を支えてもらえば歩ける。
12・24	椅子によじ登ったり、降りたりする。

表7 前言語期の認知・コミュニケーション行動の発達チェック・リスト
3）運動機能面②

口の動きの発達	
1・1	ミルクの時間はだいたい決まってきた。
2・2	哺乳時に乳首をくわえたまま中断する，遊び飲みが始まる
3	盛んに指しゃぶりをはじめる。
4・4	スプーンから飲む。
5	色々な物をしゃぶったり吸ったりする。
6・6	ビスケットを自分で持って食べる。
7	スプーンから飲む時、上唇はあまり動かさず、下唇がよく動き内側に入り込む動きが見られる。
7・8	コップから上手に飲む。
8・9	食べ物を取り込む時、上下の唇がしっかり閉じる。
10	食べる時、口の角が活発に動く。
11・11	哺乳ビン、コップなどを自分で持って飲む。
12	上下の唇をモグモグしながら食べる様子が見られる。
13	口唇を突き出した「チュー」の形ができる。
14	コップを支えてあげると水分をごっくんごっくんと連続飲みができる。
12・15	スプーンを使って食べる。

10) 岡村佳子．コミュニケーション行動の発達．藤永保編，現代の発達心理学，東京，有斐閣，120-134，1992
11) 鯨岡峻．原初的コミュニケーションの諸相．京都，ミネルヴァ書房，192-277,1997
12) 森永良子．情緒の発達と障害．東京，医歯薬出版，71-86，1993
13) 小林登．乳幼児発達評価マニュアル．東京，文光堂，4-11，1993
14) 津守真，稲毛教子．乳幼児精神発達診断法．東京，大日本図書，161-220，1961
15) 上田礼子．日本版デンバー式発達スクリーニング検査．東京，医歯薬出版，1980
16) 古賀行義編．MCCベビーテスト．東京，同文書院，1967
17) 嶋島峯眞，生澤雅夫ほか．新版K式発達検査．京都，京都国際社会福祉センター,130-141，1983
18) 新井清三郎．発達診断の理論と実技．東京，日本小児医事出版，43～57，1983
19) 穐山富太郎監訳，ブラゼルトン新生児行動評価第2版．東京，医歯薬出版，18-76，1979
20) 白瀧貞昭，黒田健次訳．乳幼児の精神発達と評価．東京，日本文化科学社，251-267，1983
21) 向井幸生．MN式発達スクリーニングテスト．東京，ニュー・メディカル社，19-30，1982
22) 国立特殊教育総合研究所 聴覚・言語障害教育研究部．ことばのない子どものコミュケーション能力の開発に関する研究．久里浜，国立特殊教育総合研究所，1980
23) 田中美郷，進藤美津子ほか．乳児の聴覚発達検査とその臨床応用および難聴児早期スクリーニングへの応用．Audiology Japan，21:52-73，1978
24) 村地俊二監訳．ミュンヘン機能的発達診断法－新生児から12ケ月児まで．東京，同朋社，220-232，1979
25) 長崎勤，小野里美帆．「初期コミュニケーションアセスメント(ECA)」尺度作成の試み—健常児とダウン症児への縦断的適用によるコミュニケーション構造の分析—東京学芸大学紀要，45:329-341，1994
26) 小嶋謙四郎編．乳幼児の発達相談．東京，医学書院，46-47，1991
27) 川上清文．乳児期の対人関係．東京，川上書店，78-81，1989
28) 福岡地区小児科医会乳幼児健診委員会編．乳幼児健診マニュアル 改訂版．福岡，福岡地区小児科医会乳幼児健診委員会，10-26，1987
29) 平山宗宏監修．乳児の発達の見方と指導—乳幼児の精神発達スクリーニング—．日本総合愛育研究所乳幼児発達研究会編，東京，日本小児医事出版，17-21，1993
30) 諸岡啓一，有本潔訳．乳児の発達 正常とボーダーライン．東京，文光堂，97-245，1995
31) 中原弘文，川口隆司．乳児のこころとからだ．東京，大日本図書，128-133,1988
32) Deliége, I. and Sloboda, J. Musical beginnings.

Oxford, Oxford University Press. 37-81, 1996
33) Hargreaves, D. J. The Developmental psychology of music. New York, Cambridge University Press, 70-97, 1986
34) 福井隼仁，山田裕美．乳・幼児の音楽認知に関する研究．奈良教育大学紀要，38:63-71，1989
35) 貫行子訳．音楽才能の心理学．東京，音楽之友社，61-77，1977
36) 黒田実郎他訳．母子関係の理論．東京，岩崎学術出版社，313-351，1969
37) 仁木武監訳．母と子のアタッチメント 心の安全基地．東京，医歯薬出版，177-202，1993
38) Gustafson, GE. and Green, JA. Developmental coordination of cry sounds with visual regard and gestures. Infant Behavior and development, 14:51-57, 1991
39) 山田洋子．0～2歳における要求－拒否と自己の発達．教育心理学研究，30:128-137，1982
40) Karl, D. Maternal responsiveness of socially high-risk mothers to the elicitation cues of their 7-month-old infants. Journal of Pediatric Nursing, 10:254-263, 1995
41) 小野けい子．人格形成の基礎と課題．藤永保編，現代の発達心理学．東京，有斐閣，193-204，1992
42) 若井邦夫，高橋道子ほか．乳幼児心理学．東京，サイエンス社，115-138，1994
43) 友定啓子．幼児の笑いと発達．東京，草書房，112-121，1993
44) 正高信男編．赤ちゃんウォッチングのすすめ．京都，ミネルヴァ書房，61-81，1996
45) 岡本夏木．ピアジェの知能の発生的段階説．村井潤一編，発達の理論．京都，ミネルヴァ書房，82-116，1997

Bulletin of Hiroshima Prefectural College of Health and Welfare 4 (1) 93−101 1999

Devising a scale for the developmental assessment of cognition and communication behavior in the preverbal period (a draft plan)

Mitsuko SHINDO*1 Fumi TAMAI*1 Kazuko YAMASAKI*1 Mayumi HORIE*1
Sadako SHIROMOTO*1 Keiko HYODO*2 Kazuko TAKENAKA*2 and Takao MORISHITA*3

*1 Department of Communication Disorders, Hiroshima Prefectural College of Health and Welfare
*2 Department of Nursing, Hiroshima Prefectural College of Health and Welfare
*3 Department of Occupational Therapy, Hiroshima Prefectural College of Health and Welfare

Abstract

The purpose of this study is to devise a scale that would be useful for the developmental assessment of cognition and communication behavior in the preverbal period. We investigated the currently used developmental tests for infants as well as of research on development of communication behavior in infants, and drew up a checklist of three aspects of development of communication behavior, namely cognition/speech comprehension, communication behavior and motor function.

New items from this list were added to overcome the deficiencies of such tests. In the near future, we propose to further improve this scale so that it can be used for the assessment of developmental level of children who have delayed speech, and for proper speech therapy of children in the preverbal period.

Key words : preverbal period, development of cognition and communication behavior, developmental assessment, checklist